

茨城大学学報

第311号

平成25年10月～平成25年11月



今年の茨苑祭から始まった学生スタッフによる高校生向け
相談コーナーの様子（水戸キャンパス・茨苑祭）

INDEX

- ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施
- ◆ 第8回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催
- ◆ 栗とさつまいもの収穫体験を実施
- ◆ プーケット・ラチャパット大学と大学間学術交流協定を締結
- ◆ 関東甲信越地区学生関係副学長・部課長会議を開催
- ◆ 人文学部市民共創教育研究センターを設立
- ◆ NHK BS1「地球アゴラ with You」が茨城大学から生放送
- ◆ 職員啓発セミナーを開催
- ◆ 第1回留学生ホームカミングデーを開催
- ◆ 横田修一氏（平成9年度農学部卒）が第52回農林水産祭天皇杯（農産部門）を受賞
- ◆ 天心遺跡及び五浦海岸などが、茨城県内初、国の登録記念物へ
- ◆ 第10回茨城大学水交會を開催
- ◆ 平成25年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択
- ◆ 平成25年度茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会の開催
- ◆ 橋本昌茨城県知事が人文学部の授業で講演
- ◆ シンポジウム&FD「教職大学院と教員養成の課題」を開催
- ◆ 平成25年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催
- ◆ ミハル・コットマン駐日スロバキア共和国大使が来学

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 職員採用内定通知書交付式を実施

平成 25 年 10 月 4 日（金）、来年 4 月に採用予定の事務系職員、技術系職員採用内定者の採用内定通知書交付式を実施しました。

これは採用内定者に対し、大学への理解を深めてもらい、かつ、採用内定者同士の相互交流を目的としたものです。

採用内定者は、前田克彦 理事（総務・財務担当）から採用内定通知書を交付され、歓迎の挨拶を受けた後、引き続き、理事による講話が行われ、国立大学法人のほか大学全体を取り巻く様々な動向の解説や、現在、文部科学省が進めている大学改革実行プラン、国立大学機能強化などのタイムリーな話題にも触れ、一同、熱心に耳を傾けていました。



内定者への講話をする前田克彦理事

その後、前田理事、相原総務部長、本人事課長出席のもと、先輩・中堅・若手職員のほか、内定者と同年度の採用試験を受験し、先行して採用されている新採職員も加わり、自己紹介も兼ねつつ、和やかに懇談をしながら昼食を取りました。

午後からは、先輩職員等と大学職員の業務内容、職場の様子や雰囲気、社会人となるまでの準備等について懇談形式による質疑応答を行いました。

内定通知書交付式当初は緊張していた採用内定者もすっかりうち解け、職員達へ積極的に質問するなど、大学職員の仕事ぶりや職場について理解を深めることができた様子でした。



先輩職員等と採用内定者の懇談・質疑応答

◆ 第8回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催

平成25年10月5日(土)、本学茨苑会館において第8回茨城大学同窓会連合会総会が開催されました。

総会は、臼井敏雄会長の挨拶に始まり、「平成24年度事業及び会計報告」及び「平成25年度事業計画及び予算」の2件の議事が諮られ、大貫仁代表幹事及び事務局から説明があり、審議の結果、満場一致で承認されました。また、各学部同窓会からそれぞれ活動報告がありました。



総会の様子

総会後には、会場を茨苑会館「レストラン SHIEN」に移して懇親会が開催され、茨城大学同窓会連合会、各学部同窓会、職域・地域同窓会及び茨城大学関係者、総勢42名が出席しました。まず臼井会長及び池田幸雄学長から挨拶があり、影山俊男理事(事業)の発声による乾杯の後、神永文人理事・副学長(学術)からの大学の近況報告、並びに各職域・地域同窓会からの活動報告などがありました。参加者は各々近況を語り合ったり、情報交換を図るなど、終始和やかに歓談していました。

最後は、参加者全員で茨城大学校歌を斉唱し、同窓会と大学のより緊密な関係の構築を誓って、盛会のうちに閉会となりました。



懇親会の様子

◆ 栗とさつまいもの収穫体験を実施

農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター（FSセンター）では、平成25年10月14日（月）に阿見町内の児童と保護者（計18名）を対象に栗の収穫体験を実施しました。これは、本学の戦略的地域連携プロジェクトの一環として、FSセンター技術職員が企画し、阿見町の広報誌で募集して実施したものです。参加者は、講義室で技術職員による栗の害虫や保存（収穫してから糖度を増すことなど）方法の説明を聞いた後、果樹園で栗の収穫を行いました。

収穫した後は焼き栗の試食も行い、参加者からは「とても楽しく、貴重な体験ができた。次は今日見たキウイフルーツやブルーベリー、トマトの収穫体験も企画してほしい」との感想が数多く寄せられました。

また、平成25年10月24（木）、25日（金）には柏中央保育園、ひたち野うしく幼稚園の園児（計45名）がさつまいも掘り体験を行いました。

園児たちは、台風の影響で小雨が降る中、小さな手で少しずつ土を掘り起こして「大きいのがとれた」との大声で元気に芋掘りを楽しみました。芋掘りの後は、牛舎に行き飼育牛を見学してから、焼き芋と柿の試食を行いました。引率した保育園の園長からは、「貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました」と感謝の言葉がありました。

今後もFSセンターでは、食品加工室を利用したパン作り体験など、新しい取り組みを充実させ、地域の食育活動に貢献していく予定です。



栗の収穫体験を行う児童と保護者



さつまいも掘りを体験する園児達

◆ プーケット・ラチャパット大学と大学間学術交流協定を締結

平成 25 年 10 月 24 日(木)、本学はタイ国プーケット・ラチャパット大学と大学間学術交流協定を締結しました。

調印式はプーケット・ラチャパット大学で行われ、本学からは神永文人理事・副学長(池田幸雄学長代理)らが、プーケット・ラチャパット大学からは Prapa Kayee 学長らが出席し、大学間学術交流協定書に調印しました。

プーケット・ラチャパット大学は経営学部、理工学部、農学部、教育学部、人文社会科学部からなるタイ国立大学で、学生数は約 7,500 名です。本学の地球変動適応科学研究機関(ICAS)とプーケット・ラチャパット大学は平成 21 年に部局間協定を締結して以来、大学院サステイナビリティ学教育プログラム「国際実践教育演習」での学生のプーケット現地演習、気候変動や津波・自然災害に関する現地調査、本学での国際ワークショップへの研究者招聘など、活発な相互交流が行われてきました。

本学では、今回の学術交流協定締結を機に、共同研究、学術交流、さらなる大学間での学生交流の活発化を期待しています。



中央左から神永文人茨城大学理事・副学長、Prapa Kayee プーケット・ラチャパット大学学長

◆ 関東甲信越地区学生関係副学長・部課長会議を開催

第14回関東甲信越地区学生関係副学長・部課長会議が平成25年10月30日（水）、31日（木）の2日間にわたり、本学を当番校として、水戸市内のホテルで開催されました。

会議では、東京地区を除く関東甲信越地区国公立大学の教育・学生関係副学長及び部課長55名を迎え、文部科学省から辻学生・留学生課課長補佐・育英奨学専門官の出席のもと、教務関係、学生支援関係の協議題に基づき、情報交換が行われました。

初日は池田幸雄学長の挨拶に始まり、分科会では、「学生の『主体的な学修』を促進する取り組みについて」、「『ファカルティ・ディベロップメント（FD）』の実質化について」、「キャリア形成に対する全学的な体制と取り組み状況について」、「各大学における障がい学生支援体制について」、が取り上げられ、各大学の取り組み内容や実情、課題について現状が発表されました。また、2日目の全体会議では「初年次教育の充実について - 高大連携を視野に入れて -」、「『アカデミック・カレンダー』について」が取り上げられ、活発に意見が交わされました。



挨拶をする池田幸雄学長



辻学生・留学生課課長補佐・育英奨学専門官



全体会議の様子

◆ 人文学部市民共創教育研究センターを設立

人文学部では、地域市民と共に教育と研究、連携事業を創り、茨城県内地域および北関東地域の地域振興に寄与することを目的とし、本学の社会連携センターと連携して活動する「人文学部市民共創教育研究センター」を平成 25 年 10 月に設置しました。

これを記念して平成 25 年 11 月 2 日（土）に、同大と地域連携の協定を結んでいる水戸市、常陸太田市などの 7 首長を迎え円卓会議を開催し、池田幸雄学長の挨拶に続き、伏見厚次郎人文学部長が新センターの役割について説明しました。



池田幸雄学長を囲んだ集合写真

部長、斎藤義則センター長が、センター設置の趣旨、組織・事業内容の説明を行いました。その後、ナチュラル・ステップ・ジャパン代表の竹本徳子氏による「ナチュラル・ステップによる持続可能なまちづくり スウェーデンから学ぶ」記念講演がありました。本シンポジウムは、自治体関係者、学生、教職員のほか一般市民ら 150 名を超える聴衆を迎えました。

続いて、「我がまちの将来ビジョンを語る」と題したシンポジウムでは、佐川泰弘人文学部副学部長がコーディネーターを務め、水戸市、常陸太田市、高萩市、鹿嶋市、常陸大宮市、茨城町、大洗町の各首長から自治体の将来ビジョン、ビジョン実現のための課題とセンターへの期待が 3 時間にわたり述べられました。



看板上掲を行う伏見厚次郎学部長（右）と斎藤義則センター長（左）

また同日は、人文学部市民共創教育研究センターの設置を記念したシンポジウムが午後 1 時から開催され、伏見学



常陸大宮市の将来ビジョンを説明される三次真一郎市長

◆ NHK BS1 「地球アゴラ with You」が茨城大学から生放送

平成25年11月4日(月)、午後4時から午後6時まで工学部小平記念ホールにてNHK BS1「地球アゴラ with You @茨城大学」の生放送が行われました。

放送は2部構成で行われ、第1部では、大学内に理系女子(リケジョ)を増やそうと活動する“工学ガール”と『リケジョ』という言葉が世に広まるきっかけとなった学生が、世界で活躍するリケジョの方々とインターネットを通じて交流しました。第2部では、今年東南アジアで海外研修を行った学生たちが、タイやインドネシアなど異国の地で農園を経営する方々と交流をしました。

* 出演した大和田詠里さん(工学部機械工学科修士1年)の声 *

『今回は海外の先輩方の研究や研究している環境を知ることができ、とても勉強になりました。やはり、普段の生活の中に研究のヒントが隠されていたり、思いつく瞬間も何気ない時にあったりするのだと感じ、私も普段から洞察力・発想力を養いたいです。そして、女性が結婚・出産しても現役で働ける環境が、整備されて欲しいと思いました。また、この番組を通して“リケジョ”や“工学ガール”を知ってもらい、女性に理系の楽しさを知るきっかけになってくれたらいいなと思います。』



第1部に出演した“工学ガール”



第2部に出演した海外研修を行った学生達

◆ 職員啓発セミナーを開催

平成 25 年 11 月 8 日（金）水戸キャンパスにて、主に係長相当職以上の事務系職員を対象とした SD として「職員啓発セミナー」を開催しました。

このセミナーは、昨今、国立大学の機能強化や大学のあり方・役割が議論される中で、法人経営や大学運営を担う職員に改めてその認識を促す機会を供することを目的に企画されたもので、本学職員 47 名が参加しました。

冒頭、前田克彦理事（総務・財務担当）から、大学改革構想の実現に向け、大学改革を担う事務系職員の意識の向上が求められる旨、開会挨拶がありました。

続いて、今回のセミナーのために講師として招聘された文部科学省高等教育局国立大学法人支援課総括係長中田幸志氏から、「国立大学法人等を巡る最近の動向について」と題し、国立大学改革の方向性や機能強化の推進に係る概要等について、講演及び意見交換が行われました。

このセミナーを踏まえ、本学としては今後の大学改革等の推進について、職員の主体的な関与及び取り組みの実現を達成していきたいです。



職員啓発セミナーの様子



講演する中田幸志氏
(文部科学省高等教育局国立
大学法人支援課総括係長)

◆ 第1回留学生ホームカミングデーを開催

平成25年11月9日（土）、水戸キャンパスにおいて、第1回茨城大学留学生ホームカミングデー及び茨城大学留学生同窓会設立総会が行われました。留学生教育・指導に関わる教職員・在学生が、国内で活躍する卒業留学生及び地域の留学生支援団体からの参加者を迎えるとともに、会に参加できなかった国内外の卒業生から寄せられたメッセージがスライドで流される等、終始和やかな雰囲気の中で、卒業生間及び在学生との交流が行われました。

当日は講演会「日本で活躍する茨大卒業留学生：つながろう、今！」が開かれ、4名の卒業生から、日本企業で働く現状や日本での就職を考えている後輩に対するメッセージが語られました。講演後のパネルセッション「茨城大学卒業留学生間のネットワーク構築」においては、今後国内外の卒業生間の繋がりを広げていく上で必要なこと、卒業生が茨城大学に対して求めること等について活発な意見交換が行われました。

また講演会後の茨城大学留学生同窓会設立総会では留学生同窓会規約が承認され、茨城大学留学生同窓会初代会長の王偉亜氏を始めとする5名が留学生同窓会役員として選出されました。今後、大学の国際化の動きと連動して、留学生同窓会の活動が展開・発展していくことが期待されています。



在学生に日本企業で働く経験を伝える卒業留学生ら



第1回茨城大学留学生ホームカミングデー出席者による記念写真

◆ 横田修一氏（平成9年度農学部卒）が第52回
農林水産祭天皇杯（農産部門）を受賞

平成9年度に農学部を卒業した横田修一氏が第52回農林水産祭天皇杯（農産部門）を受賞しました。

農林水産祭天皇杯とは、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞した出品財のうち、その内容が広く社会の賞賛に値する業績について授与される最高位の表彰です。それに次ぐ業績については、内閣総理大臣賞又は日本農林漁業振興会会長賞として表彰されます。この三賞は、農産部門、園芸部門、畜産部門、蚕糸・地域特産部門、林産部門、水産部門、むらづくり部門の7部門に授与されます。

横田さんは大学で農業経営を学び、卒業後は家業である農業（水稻）を継ぎました。横田さんが経営する有限会社横田農場は龍ヶ崎市内にあり、県下でも主要な穀倉地帯です。経営面積は平成24年時点で88ヘクタール、その水田のほとんどを田植機とコンバイン各1台で作業しています。農機が自走できる範囲で効率的な運用を図り、米の生産に係るコストは全国平均のおよそ半分となっており、大幅なコスト削減を実現しました。

横田農場では、自主販売・販路拡大にも力を注ぎ、横田農場で生産する米の約9割は、消費者、量販店等へ直接販売されています。また、自社生産の米粉を100%使用したスイーツなど米粉製品の加工販売を行うほか、加工業者へ出荷する体制を整え、加工用米としてお酒、おせんべい、お餅、味噌麴などに使用されています。



自社生産米粉100%のシフォンケーキ

この度、このような低コスト化、加工・販売面も重視した経営が評価されました。高齢化と担い手不足が深刻となっている地域農業において、横田農場は地域からも大きく期待されています。



有限会社 横田農場
代表取締役
横田 修一 氏
(茨城大学農学部卒)

◆ 天心遺跡及び五浦海岸などが、茨城県内初、国の登録記念物へ

茨城大学五浦美術文化研究所が管理する天心遺跡は、平成 25 年 11 月 15 日（金）に開かれた文化審議会で、歴史的文化価値や造園文化の発展に寄与していると認められ、「名勝地」「遺跡」の双方で登録記念物に新たに登録するよう答申され、来年 2 月～3 月に告示、茨城県初の登録記念物となります。

* 答申内容 *

『岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦【茨城県北茨城市】』

近代日本美術の発展や文化財保護に多大な功績を遺した岡倉天心（本名覚三、1862～1913）が転居した地。邸内には現在、居宅、長屋門、六角堂をはじめ、天心が造った庭園がある。居宅から見える大五浦・小五浦は大小の岩礁が点在する豊かな風致景観を成している。

岡倉天心は日本の美術思想家で、明治 31 年（1898 年）に東京美術学校校長を辞職後、日本美術院を設立し、明治 36 年に五浦に転居した。その後約 1 年間のボストン滞在から戻った天心は邸宅の大改造に着手した。

天心邸の敷地は、なだらかに海へと傾斜する固めの岩盤上にあり、一部はダイナマイトを用いて造成された。当時の建物のうち、母屋の中心部分や長屋門は現在も残る。また、眼前に広がる太平洋（大五浦・小五浦）とそこに点在する岩礁も庭園の要素として取り込まれている。

以上のように、本遺跡・庭園は日本近代の美術の歴史及び造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。



長屋門



大五浦(右側)、小五浦(左側)



大五浦(奥)、小五浦(手前)



岡倉天心旧宅・庭園

◆ 第10回茨城大学水交会を開催

平成25年11月15日（金）に第10回茨城大学水交会（同大学事務系職員OB・OG会）を開催しました。

同会は2年毎に開催しており、これまで本学の発展を支えてこられた本学OB20名及び現職職員20名が参集しました。水戸キャンパス構内の見学会はあいにくの雨天により中止されましたが、耐震改修を終え新装されたばかりの事務局棟をバックに記念写真の撮影が行われました。

総会では、元事務局長を務められた都賀善信会長から開会の挨拶があり、引き続き現職管理職の紹介が行われました。また、副会長でもある前田克彦現事務局長からは、大学改革の現状説明及び本学の近況報告がありました。

その後、会場を移し、現職職員も多数参加して懇親会が開催され、先輩、後輩の垣根を越えて旧交を温めました。おって元事務局長を務められた小村久米夫副会長から、職員一人一人がそれぞれ意識をもって大学改革に臨むようご助言があり、元工学部事務長磯好知幹事の閉会挨拶により次回の開催を期してお開きとなりました。

なお、総会が始まる頃には雨も上がり、大きな虹が夕焼けとともに大学校舎を彩っていました。



第10回茨城大学水交会総会の様子

◆ 平成25年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択

本学では、文部科学省の、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する「大学の世界展開力強化事業」に、東京農工大学（学長：松永 是）及び首都大学東京（学長：原島 文雄）とともに申請を行い、「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」構想が採択されました。

◎「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」構想について

本構想では、AIMS 加盟大学における理工系分野のニーズに対応するため、茨城大学、首都大学東京及び東京農工大学の3大学（以下、国内連携大学という。）により構築されたコンソーシアム（平成25年10月31日「理工系大学協働教育コンソーシアムに関する基本協定」締結）により、一大学では成し遂げられない幅広い分野において質の高いプログラムを提供します。

国内連携大学の知を集結し、農業・工業・食料科学並びに地域づくりをテーマにこれらの諸課題にアプローチする協働教育を AIMS 参加大学とともにを行います。また、協働教育とバディ制度を通じて教育研究のグローバル化と学生・教職員のモビリティの活性化を図り、ASEAN における開発・成長、自然と人間社会の共存を図るためのプラットフォームを構築し、環境に配慮できるグローバル人材を育成します。

◆戦略と構想

三大学共通の国際化への理念の一致

国際社会で活躍できる専門知識を備えた人材の育成

- ▶東京農工大学: 国境を越えてリーダーシップを発揮できる、実践型グローバル人材の育成
- ▶茨城大学: 国の内外を問わず活躍できる国際的視野をもった人材の育成
- ▶首都大学東京: 国際社会に通用する教養と高度な専門知識を備えた人材の育成



◆ 平成25年度茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会の開催

平成25年11月19日（火）、水戸京成ホテルにおいて、「いばらきの地域資源とサステイナビリティ」をテーマに、講演会を開催しました。

この講演会は、例年、本学と茨城県並びに茨城県産業会議との連携により、環境等をテーマとして実施しています。今年度は、地域にある様々な資源を地域の実情に応じた手法を駆使して地域づくりを実践されている学識経験者、行政担当者、民間の方々をお招きし、茨城県における地域資源を活用した持続可能な社会づくりに関して広く議論することを目的に開催しました。当日は、行政関係者や企業関係者、一般市民、県内の大学生など、約100名が参加しました。

講演会は、池田幸雄学長の開会あいさつに続き、金子郁容氏（慶應義塾大学政策・メディア研究科教授）から「ICT インフラと人のつながりがつくるグリーン社会」をテーマに、三村信男氏（本学学長特別補佐・地球変動適応科学研究機関長）から「凶暴化する気象がしめす温暖化の危険性」をテーマにした基調講演の後、パネル討論を行いました。

パネル討論では、基調講演講師の二人に龍崎眞一氏（森と地域の調和を考える会代表）、根崎良文氏（茨城県企画部科学技術振興課新エネルギー対策室長）、中田潤氏（本学人文学部社会科学科教授）を加えた5名のパネリストが、一般参加者からの質問や意見に対して、回答する形で進行しました。参加者からは、「地域の人と人とのつながり方（ソーシャルキャピタル）を高めるための仕掛けの作り方」や「地域資源を利用した住民主導の地域活性化への取り組みについて」などへの質問があり、地域資源の活用や人や技術を媒介とした新たな地域づくりについて活発な議論が交わされる有意義な講演会となりました。



茨城大学・茨城県・茨城産業会議
連携講演会の様子



パネル討論の様子

◆ 橋本昌茨城県知事が人文学部の授業で講演

橋本昌茨城県知事が平成 25 年 11 月 20 日（水）、茨城大学を来訪され、人文学部の授業で講演されました。

平成 25 年度後期の人文学部専門科目「政治とメディア」（人文学部 古賀純一郎教授）では水戸在住のマスコミ編集者トップによる連続講義を実施しています。今回は、読売新聞水戸支局長の遠藤雅也氏の講義にゲストスピーカーとして、橋本知事が招かれました。

橋本知事は「県政運営とメディア」をテーマに約 1 時間講演し、講義の後半では、学生による模擬会見にも応じました。

講演では、「活字だから正しいと思いがちだが、活字でも間違っていることはたくさんある」、「そういう批判的な形で見ると読者は日本では、まだ育っていない」と報道を読み解くメディア・リテラシーの重要性を強調しました。同時に、メディアの果たす役割は大きいとし、「これからの日本、茨城をよくするためにどうすればよいのか高い発想を持ってほしい」と期待感を表明しました。



「県政運営とメディア」について講演する橋本昌茨城県知事



講義の様子

◆ シンポジウム&FD「教職大学院と教員養成の課題」を開催

平成 25 年 11 月 20 日（水）、大学院教育学研究科主催のシンポジウム&FD が行われました。参加者は、合計 80 名以上になり、本学だけではなく琉球大学などからの参加者もあり高い関心を呼びました。

池田幸雄学長の挨拶のあと、第 1 部では、文部科学省高等教育局大学振興課の栢森麻代専門官より「大学院段階の教員養成改革について」の基調講演が行われました。栢森氏は、今日の学校に期待される役割と教員に求められる資質能力について話され、昨年の中教審以来の大学院段階における教員養成の政策的動向について丁寧に説明され、今後の養成教育が教職大学院を中心に行われることを指摘されました。

第 2 部では、教育学部の加藤崇英、杉本憲子、丸山広人准教授らによる「茨城大学における教職大学院構想」をテーマにした討議が行われました。討議では、茨城大学教職大学院教育実践高度化専攻（学校運営領域、教育方法開発領域、児童・生徒支援領域）の特色について話し合われました。同大学院の特色は、教育理論と実践を架橋・往還する実践力を育てる点にあり、具体的には①教育現場から現代的課題に対応すること、②3つの各領域をまたがる共通科目によって領域を越えた研究が行えること、③学校との連携協力しながら教育実践を省察する力を育てること、④授業・課題研究指導を、研究者教員と実務家教員との TT で実施すること、の 4 点をめぐる討論がなされました。

第 3 部では、教育学部の橋浦洋志教授により「大学院における教員養成教育の課題－インターンシップの試行について－」の報告がありました。現在、大学院教育学研究科では、専修免許状で求められている実践的な科目「教職実践研究」の実施に向けて附属小・中学校においてインターンシップの試行を行っており、その現状と課題が報告されました。最後に尾崎久記教育学研究科長より、茨城大学教職大学院の実現に向けてなされるべきことと、これからの教員養成の課題について指摘がなされ、閉会となりました。



基調講演を行う文部科学省高等教育局
大学振興課の栢森麻代専門官



第 2 部に行われた討議の様子

◆ 平成25年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催

永年勤続者表彰式が平成25年11月22日（金）、事務局第2会議室で行われ、役員出席のもと、池田幸雄学長から被表彰者一人一人に表彰状が手渡され、あわせて記念品が贈られました。

永年勤続者表彰は、永年（勤続20年）にわたり勤務し、職務に精励された教職員を表彰する制度で、本年度対象となる被表彰者は18名でした。

表彰式においては、池田学長から祝辞として、永年の労へのねぎらいと、今後の活躍への期待が述べられ、これに対し、被表彰者を代表して教育学部附属中学校の長谷川秀子養護教諭が謝辞を述べられました。

表彰式に引き続き、昼食を取りながら懇談会が開催され、各理事からの祝辞をいただき、また、各被表彰者からの挨拶が行われるなど、終始和やか雰囲気の中で歓談が行われました。



謝辞を述べる長谷川秀子養護教諭



表彰式後の記念写真

被表彰者（50音順、敬称略）

池田由紀（農学部附属フィールド・サイエンス教育研究センター[職員]）、糸賀 充（総務部人事課[職員]）、井上和浩（工学部技術部[職員]）、開田晃央（附属中学校[附属学校教員]）、郡司幸寿（農学部事務局[職員]）、近藤祥子（附属幼稚園[附属学校教員]）、白井律子（附属小学校[附属学校教員]）、鈴木明子（学術企画部学術情報課[職員]）、高松正幸（財務部施設課[職員]）、田中正彦（附属中学校[附属学校教員]）、塚田秀之（学務部入学課[職員]）、長谷川秀子（附属中学校[附属学校教員]）、塙 浩之（機器分析センター[職員]）、三浦範昭（総務部総務課[職員]）、皆川洋子（学務部学務課[職員]）、山口一成（工学部技術部[職員]）、山崎藤男（監査室[職員]）、和地貴仁（総務部人事課[職員]）

◆ ミハル・コットマン駐日スロバキア共和国大使が来学

平成 25 年 11 月 22 日（金）、ミハル・コットマン駐日スロバキア共和国大使が来学し、教養科目授業比較文化論「異文化とはなんだろう」のゲストスピーカーとして、特別講義を行いました。特別講義は、すべて英語で行われ、スロバキアの歴史、風土、文化、社会、政治経済、食文化など多岐にわたり、スロバキアに対するイメージと理解を深めることができる講義となりました。会場の人文学部講義棟 10 番教室には、受講生 130 名ほどの他に教職員の参加もあり、大変な盛況となりました。

その後、コットマン駐日大使は池田幸雄学長を表敬訪問され、懇談されました。

今回の来訪を機に、本学とスロバキア共和国との交流が進展することを期待しています。



特別講義の様子



ミハル・コットマン駐日スロバキア共和国大使（中央）